

東京湾の環境に対して取組を行っている企業・団体等の数

東京湾再生官民連携フォーラム 指標活用PT

<集計結果>

取組を行っている企業・団体の数: 311 団体

【取組の種類】 回答団体数 24、取組種別合計 35、その他加算 311

アンケート選択肢	団体数	活動内容(複数回答)
イベント開催	17	環境学習 10 ゴミ拾い 8 水遊び 3 アマモ場再生活動 1 アオサ回収と飼料化 1
環境保全・改善 自然再生	13	環境調査 7 アマモ場再生活動 1 鳥獣保護区の維持管理 1 海域汚染に関する配慮 1 ピオトープの造成 1 移植及び自生ヨシの生育調査 1 生活排水による環境負荷低減 1 多摩川の環境改善 1
アクセス・景観	0	回答なし
環境活動支援	4	イベント支援・協賛 3 東京湾の環境に関する募金や助成 1
その他	1	外来種ホンビノスガイの生息調査ならびに流通調査、政策提案

【取組内容の具体例】

アマモ場の再生活動 (三菱電機株式会社 神奈川支社)



干潟の生物調査 (活き活き東京湾研究会)



アオサの回収と飼料化 (東京湾アオサプロジェクト 大地を守る会)

「ごみ」になってしまったアオサを何とかしたい

東京湾の最奥部にある三番瀬は、約1200haもの広大な干潟。河川から流れ込む生活排水を浄化してくれる天然のろ過装置です。生活様式の変化に翻弄されながらもなお、そこかしこに豊かな自然が息づいているところです。ところがその東京湾では昨年、ノリの不作やアサリの死滅などの被害がにわかに深刻化しています。その原因のひとつが、海に漂う藻のアオサ。透光性があり、窒素やリン酸を吸収して繁殖する性質によって、海中が栄養過多にならないようバランスをとってきた「浄化係」のアオサは、いつのまにか皮肉にも海の酸欠の一因とされるようになったのです。

江戸時代から代々この地で家業を継いできた生粋の漁師、大野一敏さんは、危機に瀕した三番瀬をなんとかしたいと、アオサの有効利用について大地を守る会にとりくみの提案をしてくれました。大野一敏さんが代表を務めるベイブラン・アソシエイツと大地を守る会の共同プロジェクトの誕生でした。ボランティアのみならずとも三番瀬の干潟に流れつくアオサを集め、ニワトリのエサと肥やしにする「東京湾アオサプロジェクト」はこうして2000年7月にスタートしたのです。



事業所の環境負荷量の推移や環境行動向などについての環境学習を実施

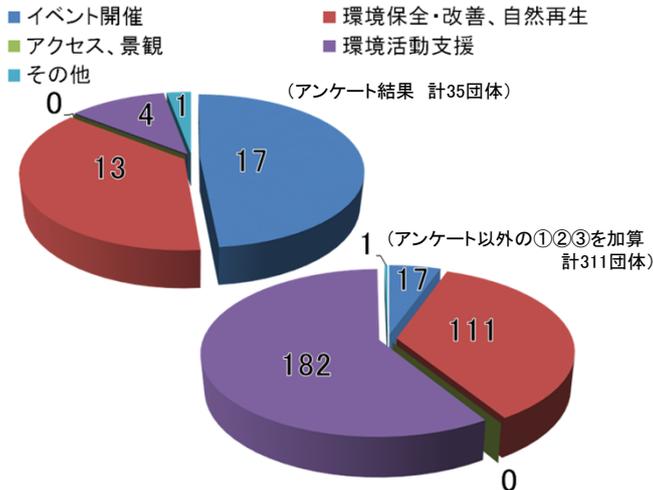
(株式会社日本触媒)



東京湾環境一斉調査報告書より

アンケート以外の集計結果

- ①東京湾環境一斉調査参加：98 団体
- ②東京湾大感謝祭2015 参加：67 団体(広場+海の学び場)
- ③官民連携フォーラム 参加：111 団体(H28年3月時点)



【アンケートフォーム】

<取組内容(複数選択可)>

具体的な活動内容について、下記の中に該当するものがあればチェックを入れてください。該当するものが無ければ、その他に記入をお願いします。

A. イベント開催	<input type="checkbox"/> 水遊び※ <input type="checkbox"/> 環境学習※ <input type="checkbox"/> ゴミ拾い※	<input type="checkbox"/> 海のフォトコンテスト <input type="checkbox"/> その他 ()
※ 参加人数等について別シートを送りますので、ご協力ください。		
B. 環境保全・改善、自然再生	<input type="checkbox"/> 生物共生型護岸の設置 <input type="checkbox"/> 環境配慮型の港湾構造物の利用 <input type="checkbox"/> 排水に関する配慮(経路規制含む) <input type="checkbox"/> 海域汚染に関する配慮 <input type="checkbox"/> 環境調査の実施 <input type="checkbox"/> 水源の緑化	<input type="checkbox"/> ピオトープの造成 <input type="checkbox"/> エコマリン協定(東京湾小型船舶等環境保全協定)の締結 <input type="checkbox"/> その他 ()
詳細な取組内容や実施場所、関係法令などは補足事項へご記入ください。		
C. アクセス・景観	<input type="checkbox"/> 関係者以外の人の海へのアクセスに関する配慮 <input type="checkbox"/> 海や港湾から見たときの建群・工場の景観の配慮	<input type="checkbox"/> その他 ()
詳細な取組内容や実施場所、関係法令などは補足事項へご記入ください。		
D. 環境活動支援	<input type="checkbox"/> 東京湾の環境に関する募金や助成 <input type="checkbox"/> 官民連携フォーラムへの参加 <input type="checkbox"/> 東京湾大感謝祭への参加	<input type="checkbox"/> 上記A等のイベント支援・協賛 <input type="checkbox"/> その他 ()
E. A~Dに類似しない場合	()	
補足事項 (より詳細な取組内容や実施場所、関係法令、感想、意見など)	()	

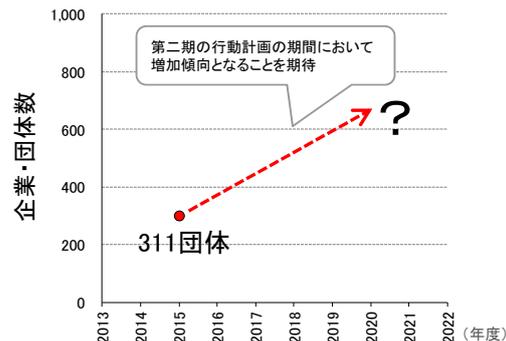
注) 東京湾再生に資する取組であれば、河川や陸域における活動も対象とします。

【回答団体一覧】 (24団体、50音順)

- ・ アジアの浅瀬と干潟を守る会
- ・ 味の素(株)川崎事業所
- ・ 活き活き東京湾研究会
- ・ 板橋区立エコポリスセンター
- ・ 江戸川区子ども未来館
- ・ オリエンタル白石株式会社
- ・ 川崎市役所
- ・ NPO法人 行徳野鳥観察会友の会
- ・ グロープライド株式会社
- ・ 五洋建設株式会社 東京土木支店
- ・ JNC石油化学(株)市原製造所
- ・ 一般社団法人浄化槽システム協会
- ・ 株式会社 高千穂
- ・ 東亜建設工業㈱千葉支店
- ・ 株式会社日本触媒(川崎製造所千鳥工場及び浮島工場)
- ・ 認定NPO法人ふさと東京を考える実行委員会
- ・ 株式会社 本間組 東京支店
- ・ 三菱電機株式会社 神奈川支社
- ・ 谷津干潟自然観察センター
- ・ よこはま水辺環境研究会
- ・ 株式会社 リフレックス

注) 東京湾環境一斉調査報告書記載6団体含む

<年度ごとの推移>



東京湾再生のための行動計画(第二期)とは【快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。】ことを目標として、東京湾に関連する関係省庁及び地方自治体からなる東京湾再生推進会議が平成25年5月に策定した計画。計画期間は平成25~34年度までの10年間。